

# 東建パブリニュース

平成29年1月11日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年1月3日 住宅新報 P. 8

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



月中旬に導入後、すべての2×4工法アパートに順次導入する予定だ。「鉄骨地中梁基礎工法」は鉄筋の代わりにコンクリ

東建コーポレーションは、賃貸集合住宅向け高遮音床「TKS-50（東建高遮音床50システム）」と「鉄骨地中梁基礎工法」を開発した。「TKS-50」は同社木造アパート向けに標準装備している「TKS-55」の改良版。床の根太間の受け材に取り付けた防振ダンパー増量（従来比1.8倍）と天井に使用する防振吊木受け材改良で、上下階の重量床衝撃音レベルを低減。木造賃貸アパート最高レベルの遮音性能「LH-50」を達成した（写真）。同社高耐震木造アパート「2×4・ユニヴァーシイ」にオプションとして1

東建コーポ、2商品投入  
アパート向け高遮音床と鉄骨地中梁で商品差別化

トで被覆した鉄骨梁を採用。基礎工事の工期短縮（約25日から約14日）と、東建グループのナスラック工場で生産される鉄骨梁と付随する部材一式も一括生産することで一貫した品質・納品管理が可能になる。同社高耐震鉄骨造「シエルシリーズ」に導入する。2商品投入で賃貸住宅の新たな差別化を図る。

▲平成29年1月3日 住宅新報 P. 8

以上